

公益社団法人 日本青年会議所 近畿地区 滋賀ブロック協議会

滋賀ブロック会長 田中 彦嗣

現状分析	<p>滋賀ブロック内においては、ここ数年の間、台風による人的・物的な被害があったものの、交通インフラが壊滅的な被害を受ける事は無く、人口減も最小限に抑えられ、雇用環境は良好で、長寿県でもありました。しかしながら、一本の道路が被害を受ければ孤島かし兼ねない湖西地域、琵琶湖を挟んだ東西のアクセス不良・南高北低と言われる経済格差や全国平均から大きく引き離された学力の問題があり、適切なインフラ・人材投資による持続的な発展を目指す必要が有ります。</p>
活動概要	<p>■地域社会でSDGsを達成していくための事業の企画・実施 今後も地域が持続的に発展し、また、災害に対しても強靱性を発揮する為に、域内各地のインフラ整備状況を調査研究し、経済・防災の両面から今後の社会基盤整備の在り方を示すことにより、地域が抱える経済格差の問題・インフラの脆弱性の問題を解消する方法論を提示することで、SDGsの意義を地域に発信し、認知度向上と参画者の増加をはかります。</p> <p>■ブロックと連携した会員拡大支援の企画・実施 青年会議所がやっていること、出来ること、入会後に広がる世界を出来る限り数多く提示する事によって、青年会議所の門戸の広さを発信し、無関心な市民を参加者へ、参加者を参画者へ、参画者を同志へと巻き込むことで、冒険心溢れる湖国滋賀を実現します。</p>
S D G s	【4・8・9・17】
K P I	<p>(SDGs) 滋賀県内でSDGsを推進している団体との連携を行う。HP相互リンク10団体以上、各事業、SDGs推進団体の参加・参画団体1以上。連携団体の、SDGS関連事業への取材5回以上。滋賀県との連携・対談の設営。</p> <p>(会員拡大) 滋賀ブロック協議会で行う事業への対外対象者10%参加増、各事業1以上の外部団体の巻き込み、県内メンバー30%増加、出席率の昨年対比向上</p>
IMPACT (影響力)	<p>(SDGs) 今後曲がり角に差し掛かる滋賀の経済へのビジョン作成を行い、次の飛躍の道筋を提示します。</p> <p>(会員拡大) 社会問題に対し市民が興味を持てる形での問題提示を行い、自然な形で関心を向上します。</p>
MOTIVATE (意欲)	<p>(SDGs) 滋賀の現状について、冷静かつ公正な評価を行い、危機に対し前向きに取り組む意義を提示します。</p> <p>(会員拡大) 0を1に、1を2にするような、段階を踏んだ意識向上を図る拡大を行い、同志の輪を拡大します。</p>
INVEST (投資)	<p>(SDGs) SDSsへの人的金銭的投資を行い、今、滋賀の企業・個人が投資すべき方向性を明示して公共および民間の投資を促進します。</p> <p>(会員拡大) 対話を通じた拡大に投資を行い、青年経済人にとって、JC運動への参画、修練奉仕友情が最大の時間投資であることを浸透させる</p>
COLLABORATE (協力)	<p>(SDGs) 自治体・地域諸団体との連携を行い、経済ビジョンが画餅ではなく実効性のあるものとします。</p> <p>(会員拡大) 青年会議所シニア・クラブ諸先輩方との連携を積極的に行い、実利的な拡大をします。</p>
CONNECT (つながり)	<p>(SDGs) JCと滋賀県が協力して運動を展開し、県内へSDGsを浸透します。</p> <p>(会員拡大) JCと青年会議所シニア・クラブが協力して運動を展開し、新たな拡大ルートを開拓します。</p>
政策手法 (ゴールデンサークル)	<p>(SDGs) Why(理由): 滋賀の未来をより明るく描くため How(手法): 先の在り方を明示し提示します What(行動): 滋賀の未来を照らす経済ビジョンを発表します。</p> <p>(会員拡大) Why(理由): 青年の社会への無関心を解消するため How(手法): 青年会議所運動の可能性と効果を提示する What(行動): 参加・参画・拡大の3面から会員拡大を行います。</p>
パートナー	<p>滋賀県・各種団体 青年会議所シニア・クラブ</p>